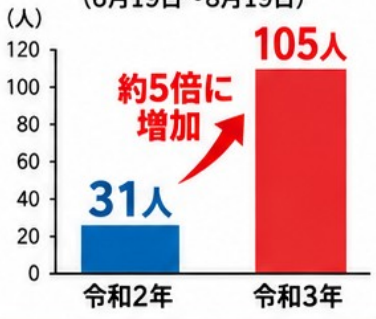
平川市の暑さ対策を考える －一般質問の主な内容－

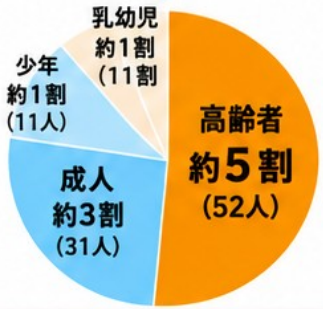
猛員から市民の命と健康を守るために
今、できることを。

1. 今年の暑さと熱中症の発生状況

熱中症搬送人員
（6月19日～8月19日）



令和3年の世代別搬送人員
（割合）



2. 市民の声・実際の状況



- クーラーがなく我慢に限界…
- 高齢者は暑さを自覚しにくく熱中症の危険が高い。

暑さに慣れていない東北では、急な猛暑で誰でも熱中症になる可能性がある。



3. 先進事例（大阪府の取組）

暑さから身を守る3つの習慣

備える習慣
暑さに強い体づくり
（水分補給・適度な運動 など）

気づく習慣
暑さを知らせる情報の活用
（熱中症警戒アラートの確認 など）

涼む習慣
暑さをしのぐクーラーの利用
（自分の感覚だけに頼らない）

4. 一般質問での主な質疑応答

議員の質問・提案　市の答弁（市長・担当部長）

① 指定緊急避難場所のクーラー設置状況について



小・中学校を除く屋内の指定緊急避難場所67か所のクーラー設置状況は？
未設置の場所もあるが、いつまでに設置するなど目標を定めて進めるべきでは？





総務部長

67施設のうち48施設にクーラーを設置。
未設置の19施設については、町会が必要性を判断し、市の助成事業等を活用して設置を検討していただきたい。
市として設置時期の目標は定めていない。

② 公共施設・避難場所の開放（暑さをしのぐ一時避難場所）



熱中症警戒アラート発令時に、市民が暑さをしのげるよう、公共施設やクーラーのある避難場所を無料で開放し、市民を誘導すべきでは？





総務部長

現時点で、アラート発令時に避難所を開設する運用は考えていない。維持経費もかかるため、各町会の判断にお任せしたい。
今後、考え方を整理し、検討していきたい。

③ 低所得者・障がい者・高齢者世帯へのクーラー購入支援



経済的な事情でクーラーを所有していない世帯に、購入資金の貸付けや相談窓口など、市独自の支援策を講じるべきでは？





健康福祉部長

市独自の貸付けは実施していない。
購入資金の相談があった場合は、社会福祉協議会の生活福祉資金貸付制度を案内している。
今後も、熱中症対策の普及・啓発を行っていきたい。

④ 高齢者への啓発と情報発信



介護予防教室や通いの場、運動教室などを活用し、市民全体に熱中症のメカニズムや対処法、暑さに強い体づくりの情報発信を強化すべきでは？





健康福祉部長

通いの場など高齢者が集える機会を活用し、熱中症に関する講話や啓発を積極的に行っていきたい。

5. 議員からの提案・要望（今後取り組んでほしいこと）

1. 総合的な暑さ対策の策定（単発的ではなく、計画的に）
2. 熱中症警戒アラート発令時の公共施設への誘導と開放
3. 指定緊急避難場所へのクーラー設置促進（目標を設定し、市主導で）
4. 低所得者・障がい者・高齢者世帯へのクーラー購入支援
5. 市民全体への熱中症予防・対処法の情報発信強化

市長の見解（要旨）



地球温暖化により今後も厳しい暑さが続くと考えられる。地域により暑さの状況は異なるが、個々のクーラー購入への助成は難しい。集会施設の改修や助成制度の活用など、現状の取組で対応していきたい。

今後に向けて

市は一部の提案について「今後検討していきたい」としており、市民の命と健康を守るため、より実効性のある暑さ対策の推進が求められています。